



一般社団法人日本スーパーマーケット協会

平成27年12月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	67,157,549 万円	100.0%	103.3% (102.8%)	64,060,879 万円	100.7% (100.5%)
食 料 品	56,247,953 万円	83.8% (83.9%)	103.7% (103.4%)	54,035,206 万円	101.3% (101.3%)
農 産	7,672,536 万円	11.4% (11.7%)	103.0% (105.8%)	7,381,418 万円	100.7% (103.6%)
水 産	6,194,281 万円	9.2% (8.2%)	103.1% (102.2%)	5,955,624 万円	100.6% (99.9%)
畜 産	7,097,540 万円	10.6% (10.9%)	102.3% (102.1%)	6,787,447 万円	99.7% (99.7%)
惣 菜	6,326,534 万円	9.4% (9.3%)	106.1% (104.4%)	6,035,794 万円	103.1% (102.0%)
日配食品	12,043,572 万円	18.0% (18.9%)	104.1% (103.5%)	11,573,730 万円	101.8% (101.4%)
加工食品	16,913,489 万円	25.2% (24.9%)	103.7% (102.9%)	16,301,195 万円	101.6% (101.1%)
生活関連	4,584,569 万円	6.8% (6.7%)	101.4% (100.5%)	4,412,304 万円	99.4% (99.1%)
衣 料 品	2,017,623 万円	3.0% (3.3%)	91.9% (93.0%)	1,914,213 万円	91.2% (92.0%)
そ の 他	4,307,404 万円	6.4% (6.1%)	105.4% (102.7%)	3,699,156 万円	99.2% (96.7%)

② 数 値

全店総売上高	67,157,549 万円	店 舗 数	4,843 店舗
総売場面積	9,476,763.3 m ²	総従業員数	264,615 人

店舗平均月商	13,866.9 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,078.3 円 (98.9%)
月間m ² 売上(前月)	7.1 万円 (5.9 万円)	平均店舗面積	1,956.8 m ²
月間坪売上(前月)	23.4 万円 (19.3 万円)	パート比率(前月)	78.0% (77.7%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 12月の天候は、地域別に差異が大きく、北日本や東日本の日本海側は好天に恵まれる日が多かった一方、沖縄、東日本太平洋側および西日本の日本海側は曇りや雨の日が多かった。気温は全国的にかなり高く推移し、鍋材料などの冬物商材の売上にマイナスの影響を与えた
- ・ 昨年と比べ、木曜日が1日多く、月曜日が1日少ない曜日回りであり、売上に与える影響は軽微
- ・ 青果は、特に野菜で全面相場安の様相となった。畜産は、豚肉相場は落ち着いているものの、牛肉相場は引き続き、高騰している

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 野菜は、前月から引き続き、相場安の展開となり、商品単価下落の要因となった
- ・ 記録的な高温の影響により、鍋材料は不振を極めた。特に菌茸類の不振が顕著
- ・ 取り組みを行っている企業においては、地場産直野菜の売上が急速に増えている
- ・ 果実は、今季好調のみかんのほか、りんごが好調である一方、相場安のいちごが低調

○ 水産

- ・ 月を通じ高温で推移したことにより、刺身、マグロの売上が増えた
- ・ 一方、旬魚は鍋材料を中心に不振であった。その中では、ブリは比較的好調であった
- ・ 年末商材であるカニは、仕入れ価格高騰の影響により、やや売りづらい環境であった

○ 畜産

- ・ 牛肉（特に国産）の相場は、引き続き高騰している。上旬からクリスマスにかけて、高温による鍋商材不振も相まって、売上不振が続いた
- ・ ただし、クリスマス以降の歳末においては、高付加価値商品を中心に支持が上がった傾向もみられる
- ・ 加工肉における、健康への懸念報道による影響は、依然として残っており、特に歳暮ギフトの売上減少が顕著に表れた

○ 惣菜

- ・ 引き続き好調トレンドを維持している
- ・ クリスマス、年末といったイベント時に寿司、オードブルなどのパーティーメニューを訴求し、非常に良い結果を出している企業が多い

○ 日配・加工食品

- ・ 日配は、高温の影響により、和日配が全体的に不振。一方、アイスクリーム、デザート、チルドのピザなどは好調に販売できている
- ・ 加工食品も同様に気温の影響を大きく受け、飲料、ビールなどは好調であったものの、鍋つゆや餅は前月に引き続き、売上を伸ばすことが難しかった

○ 「クリスマス」の状況について

- ・ 上質な素材を使用した寿司や国産のローストチキンなど、高付加価値商品の動向が良い
- ・ パーティメニュー提案として、従来の寿司、オードブルのほか、洋食メニューの付加として、日配部門のピザ、チーズ、畜産部門のローストビーフなどを訴求し、成功している企業が多い
- ・ 菓子は、クリスマスブーツの販売は鈍化傾向にあるものの、高単価玩具菓子、高級チョコレートの付加などの工夫により、マーケットでの売上を増やした

○ 「年末マーケット」の状況について

- ・ おせち（予約）は概ね昨年並みで着地も、企業間格差は拡大している傾向
- ・ ご馳走メニュー（寿司、刺身、精肉）は、高付加価値商品の動向が良い
- ・ 年越しそば需要においては、天ぷら、そばともに、上質な素材を使用したかきあげや、国産原料を使用した生そばなど、高単価商品への支持が拡大している

以 上